

のアルバム

収穫が楽しみ♪

▼2月15日 大篠原

ふれあいの森づくり事業の一環で、大篠原自治会の子どもたち40人が地元生産森林組合の協力を得て、ドリルで穴を開けた原木にシイタケの菌を打ち込む作業を体験しました。

菌打ちした原木は各家庭に持ち帰って栽培し、うまく管理すれば11月頃にはシイタケが収穫できます。



▼3月13日 市役所



この街大好きプロジェクト

中主中学校3年生が「ずっと住み続けたい街づくり」をテーマに3年間学習を積んできました。その成果として、野洲市の長所や短所を知り、それらを改善するための提案をまとめ、代表の5人が市長に提出しました。

防災、高齢化や野洲駅の整備・交通など6項目について、学習をまとめた提案です。

中学生たちは、「この学習を通して、野洲市のことがさらに好きになりました」と話していました。

エイジレス・ライフ実践者

▼3月16日 市役所

年齢にとらわれず自らの責任と能力において自由に生き生きとした生活を送ることを「エイジレス・ライフ」といいます。野洲市在住の大谷利男さんが、内閣府からエイジレス・ライフ実践者に贈られる「エイジレス章」を受賞しました。

高齢者サロン・老人クラブ・学童保育所等のイベントを中心に、腹話術や手品、唱歌などあらゆる活動に熱心に取り組む姿勢が認められたものです。



歴史民俗博物館 ☎587-4410、Fax587-4413

三上藩と遠藤氏

野洲市三上は、天保一揆の舞台としても知られていますが、江戸時代の譜代大名であった遠藤氏の陣屋が置かれた地としても注目されています。元禄11(1698)年、遠藤氏が野洲郡三上村に陣屋を設置し、三上藩が誕生しました。領地は1万石で、近江国野洲・栗太・甲賀・滋賀郡の27か村に分散していました。

遠藤氏の出自は房総地方で勢力をもった千葉氏で、はじめは「東氏」を名乗っています。鎌倉時代、承久の乱(承久3(1221)年)で軍功をたてた東胤行が、美濃国郡上郡山田庄(岐阜県)を与えられてから、同庄に移り住んだと伝えられています。以後、郡上八幡を拠点に活躍し、江戸時代には郡上藩遠藤家として成立しました。元禄5(1692)年、跡継ぎがないまま、藩主常久が早世したため、同藩は取り潰しとなります。しかし、幕府は大垣新田藩主の戸田氏成の養子、胤親を遠藤家に入れて、同家を再興させ、常陸・下野国(茨城・栃木県)に1万石の領地を与えています。そして、元禄11(1698)年3月7日に近江国へ領地替えとなり、三上藩が誕生したのです。

歴代藩主には、5代藩主胤統(1793~1870年)のように、幕府重職の若年寄などに就き、幕末の混乱期に活躍した人物も登場しています。

明治3(1870)年に和泉国吉見村(大阪府)へ陣屋が移って吉見藩となり、翌年に廃藩置県を迎えています。

現在開催中のテーマ展「三上藩・藩士鷲見家の歴史」(月曜日休館)では、三上藩と藩主遠藤家、そして藩士の鷲見家の歴史を紹介していますので、ぜひご覧ください。

(博物館学芸員 齊藤慶一)



三上藩陣屋瓦(当館蔵)



100歳おめでとう

100歳の誕生日を迎えた奥谷ますさん(小篠原)を山仲市長がお祝いに訪問しました。

大正4年3月6日生まれのますさんは、「食べ物好き嫌いなく何でもいただきます。健康でいられることに感謝しています」と話していました。毎日、テレビを見ることが楽しみだそうです。

▼3月10日 小篠原



市民のつどい

「考えよう人権 築こう人権の世紀」をテーマに、人権の大切さを一緒に考えようと「第10回野洲市人権尊重をめざす市民のつどい」が開催されました。

市内小・中学生等の人権作品入選者の表彰と作品発表では、会場から大きな拍手が贈られました。

▼2月28日 野洲文化ホール

